



## 平成31年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年12月5日

上場会社名 株式会社東京楽天地 上場取引所 東  
 コード番号 8842 URL https://www.rakutenchi.co.jp  
 代表者(役職名) 取締役社長 (氏名) 中川 敬  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役経理担当 (氏名) 岡村 一 (TEL) 03(3631)5195  
 四半期報告書提出予定日 平成30年12月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年1月期第3四半期の連結業績(平成30年2月1日～平成30年10月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年1月期第3四半期	7,065	△11.2	723	△42.4	849	△38.6	370	△61.8
30年1月期第3四半期	7,957	△1.2	1,255	14.9	1,384	25.4	970	38.7

(注) 包括利益 31年1月期第3四半期 352百万円(△76.5%) 30年1月期第3四半期 1,494百万円(96.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年1月期第3四半期	61.96	—
30年1月期第3四半期	162.20	—

当社は、平成29年8月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年1月期第3四半期	44,332	30,281	68.3	5,063.22
30年1月期	47,000	30,291	64.4	5,064.39

(参考) 自己資本 31年1月期第3四半期 30,281百万円 30年1月期 30,291百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年1月期	—	3.00	—	30.00	—
31年1月期	—	30.00	—	—	—
31年1月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年8月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。  
 なお、株式併合後の基準で換算した平成30年1月期の1株当たり年間配当額は60円となります。

## 3. 平成31年1月期の連結業績予想(平成30年2月1日～平成31年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,500	△9.8	800	△50.5	950	△46.3	250	△80.5	41.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年1月期3Q	6,511,218株	30年1月期	6,511,218株
② 期末自己株式数	31年1月期3Q	530,536株	30年1月期	529,878株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年1月期3Q	5,981,050株	30年1月期3Q	5,982,195株

(注)前連結会計年度の期首に株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策の効果を背景に、雇用・所得環境は着実に改善し、個人消費も持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響が懸念されるなど、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況下にあつて、売上高は7,065百万円と前年同期に比べ891百万円(11.2%)の減収となり、営業利益は723百万円と前年同期に比べ532百万円(42.4%)の減益、経常利益は849百万円と前年同期に比べ534百万円(38.6%)の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、楽天地ビルリニューアル工事に係る撤去費用等を特別損失に計上したこともあり、370百万円と前年同期に比べ599百万円(61.8%)の減益となりました。

報告セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (不動産賃貸関連事業)

不動産賃貸事業では、楽天地ダービービルをはじめ各賃貸ビルは堅調に稼働しましたが、楽天地ビルにおいて、主要テナントの入れ替えにあたり賃貸収入が一時的に減少したため、売上高は前年同期を下回りました。なお、昨年秋より実施している楽天地ビルリニューアル工事については、旧L I V I N錦糸町店地下1階部分の改装工事が完了し、本年9月6日に「西友錦糸町店」としてオープンいたしました。また、地上1階から7階部分は、来年春の株式会社パルコが運営する商業施設開業に向けて順調に改装工事が進んでおります。

ビルメンテナンス事業では、厳しい入札競争のもと、一部案件で増額受注するなど積極的な営業活動を実施し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、不動産賃貸関連事業の売上高は4,263百万円と前年同期に比べ430百万円(9.2%)の減収となり、セグメント利益は1,459百万円と前年同期に比べ463百万円(24.1%)の減益となりました。

#### (娯楽サービス関連事業)

映画興行事業では、「名探偵コナン ゼロの執行人」「劇場版コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命」「グレイテスト・ショーマン」等の作品やライブビューイングは好稼働しましたが、ヒット作が多かった前年には及ばなかったことに加え、楽天地シネマズ錦糸町を全面改修工事のため約4か月間休業したことにより、売上高は前年同期を下回りました。なお、楽天地シネマズ錦糸町は本年11月16日に「TOHOシネマズ錦糸町 楽天地」としてリニューアルオープンし、「TOHOシネマズ錦糸町 オリナス」と合わせ、全12スクリーン2,332席の新「TOHOシネマズ錦糸町」として一体的な運営を開始いたしました。

温浴事業では、「天然温泉 楽天地スパ」において、楽天地ビルリニューアル工事の影響によりオールナイト利用客が減少したこと、また、「楽天地天然温泉 法典の湯」において、競合店との競争激化などにより来客数が伸び悩み、売上高は前年同期を下回りました。

フットサル事業では、「楽天地フットサルコート錦糸町」は、本年4月1日にリニューアルオープンし好調に稼働しておりますが、工事のため約2か月間休業したこと、また、「楽天地フットサルコート調布」を2月28日に閉店したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、娯楽サービス関連事業の売上高は2,052百万円と前年同期に比べ352百万円(14.7%)の減収となり、セグメント利益は129百万円と前年同期に比べ140百万円(52.1%)の減益となりました。

#### (飲食・販売事業)

飲食事業では、前期に「ドトールコーヒーショップ 船橋北口店」および「同 市川総合病院店」を閉店したこと、ならびに本年10月15日に「同 稲毛東口店」を閉店したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

販売事業では、「まるごとにつぼん」の直営店において、売上の拡大に向けた魅力的な店づくりに注力する一方、海外からのお客様に対する取り組みをはじめとした各種販促活動を通じて、収益の改善に努めましたが、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、飲食・販売事業の売上高は749百万円と前年同期に比べ108百万円(12.6%)の減収となり、セグメント損失は1百万円(前年同期はセグメント損失0百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は44,332百万円と前連結会計年度末に比べ2,667百万円の減少となりました。これは主として、借入金の返済および短期受入保証金の償還により現金及び預金が減少したこと、ならびに有形固定資産の減価償却がすすんだことによるものであります。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は14,051百万円と前連結会計年度末に比べ2,657百万円の減少となりました。これは主として、借入金を返済したこと、および短期受入保証金を償還したことによるものであります。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は30,281百万円と前連結会計年度末に比べ10百万円の減少となりました。これは主として、その他有価証券評価差額金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成30年9月5日発表の数値を変更しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,317,946	3,967,407
売掛金	245,835	301,539
リース投資資産	745,997	754,813
有価証券	100,000	100,000
その他	357,159	348,415
貸倒引当金	△39	△60
流動資産合計	7,766,900	5,472,115
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,966,246	21,171,459
土地	5,634,648	5,634,648
建設仮勘定	2,309,364	2,813,136
その他(純額)	660,879	591,141
有形固定資産合計	30,571,138	30,210,385
無形固定資産	299,702	303,693
投資その他の資産		
投資有価証券	7,661,116	7,735,252
その他	701,823	611,306
投資その他の資産合計	8,362,940	8,346,559
固定資産合計	39,233,781	38,860,638
資産合計	47,000,682	44,332,753

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	366,258	357,236
1年内返済予定の長期借入金	1,704,000	1,704,000
未払法人税等	360,651	59,971
賞与引当金	47,387	103,035
その他	2,797,470	1,546,524
流動負債合計	5,275,767	3,770,767
固定負債		
長期借入金	7,926,500	6,648,500
退職給付に係る負債	680,865	691,673
資産除去債務	521,118	521,233
受入保証金	1,430,250	1,605,292
その他	874,314	813,774
固定負債合計	11,433,049	10,280,473
負債合計	16,708,817	14,051,241
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,046,035	3,046,035
資本剰余金	3,378,953	3,378,953
利益剰余金	23,381,598	23,393,309
自己株式	△1,994,383	△1,997,913
株主資本合計	27,812,204	27,820,384
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,479,660	2,461,127
その他の包括利益累計額合計	2,479,660	2,461,127
純資産合計	30,291,864	30,281,512
負債純資産合計	47,000,682	44,332,753

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)
売上高	7,957,217	7,065,605
売上原価	5,695,785	5,417,977
売上総利益	2,261,432	1,647,627
販売費及び一般管理費	1,005,491	924,076
営業利益	1,255,941	723,550
営業外収益		
受取利息	38	56
受取配当金	47,329	47,816
持分法による投資利益	111,362	100,848
資産除去債務戻入益	—	17,700
その他	18,624	19,955
営業外収益合計	177,354	186,375
営業外費用		
支払利息	30,761	32,029
固定資産除却損	8,025	22,439
その他	9,735	5,532
営業外費用合計	48,523	60,001
経常利益	1,384,772	849,925
特別損失		
減損損失	—	18,525
リニューアル関連撤去費用	—	317,861
特別損失合計	—	336,386
税金等調整前四半期純利益	1,384,772	513,538
法人税等	414,449	142,960
四半期純利益	970,323	370,577
親会社株主に帰属する四半期純利益	970,323	370,577

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年10月31日)
四半期純利益	970,323	370,577
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	524,639	△18,532
その他の包括利益合計	524,639	△18,532
四半期包括利益	1,494,962	352,044
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,494,962	352,044
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 平成29年2月1日 至 平成29年10月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注2)
	不動産賃貸 関連事業 (千円)	娯楽サービス 関連事業 (千円)	飲食・販売 事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	4,694,103	2,405,385	857,727	7,957,217	—	7,957,217
セグメント間の内部 売上高または振替高	291,765	1,052	654	293,472	△293,472	—
計	4,985,869	2,406,438	858,382	8,250,690	△293,472	7,957,217
セグメント利益または損失(△)	1,922,801	270,288	△119	2,192,970	△937,029	1,255,941

(注)1 セグメント利益または損失の調整額△937,029千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△928,974千円、セグメント間取引消去△8,054千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年2月1日 至 平成30年10月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注2)
	不動産賃貸 関連事業 (千円)	娯楽サービス 関連事業 (千円)	飲食・販売 事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	4,263,377	2,052,828	749,399	7,065,605	—	7,065,605
セグメント間の内部 売上高または振替高	257,189	1,025	669	258,885	△258,885	—
計	4,520,566	2,053,853	750,069	7,324,490	△258,885	7,065,605
セグメント利益または損失(△)	1,459,311	129,594	△1,176	1,587,730	△864,179	723,550

(注)1 セグメント利益または損失の調整額△864,179千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△856,831千円、セグメント間取引消去△7,347千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

「飲食・販売事業」において、当初の収益見込みを下回ることとなった飲食店舗(千葉県市川市)について、減損損失を認識しました。当該減損損失の計上額は18,525千円であります。